

「実用設計製図 幾何公差の使い方・表し方」(ISBN978-4-526-06355-4) 正誤表

(2012年9月28日追加)

箇所	(誤)	(正)
P. 7 の 7. 説明文の 4 行目	・右側の図示は、 …	・右側の図示の 下段 は、…
P. 34 の③の「該当する幾何公差」	—	「同軸度」を削除
P. 34 の④の「該当する幾何公差」	—	「同軸度」を削除
P. 35 の⑩の「該当する幾何公差」	—	「同軸度」を削除
P. 57 の《寸法公差と平面度の両方を満たす状態》の説明文の 2 行目	平面度 1 とする と、…	平面度 0.1 とすると、…
P. 57 の《寸法公差と平面度の両方を満たす状態》の説明文の 6 行目	平面度 1 とする と、…	平面度 0.1 とすると、…
P. 69 の《寸法公差と円筒度の両方を満たす様々な状態》の左上の図面、一番左の寸法	$\phi 22$	$\phi 20.2$
P. 77 の 1. の右図、一番左の寸法	14.9	19.95
P. 164 の《最小実体状態》の図、一番左の公差域	$\phi 0.2$	$\phi 0.3$
P. 178 の 1. 《図面指示が要求すること》の①の文章中	…、 $\phi 9.95$ と $\phi 10$ との間…	…、 $\phi 10$ と $\phi 10.05$ との間…
P. 178 の下段、「注意」の文章全部(誤解を招きかねない表現の是正と一部の数値誤記訂正)	(現文書; 割愛)	本頁の 1. の指示と次頁の 2. と 3. の指示の違いについて。1. と 2. の対称度の最大値は、ともに公差付き形体が最小実体寸法の $\phi 10.05$ のときの 0.13 である。一方、3. の対称度は公差付き形体の寸法いかんによらず対称度は 0.08 である。しかし、1. と 3. は、データム形体の仕上り寸法によっては浮動を生じ、その結果、実質的に対称度を増加する効果が出る。

P. 179 の 2. 《図面指示が要求 すること》の①の文章中	…、 $\phi 9.95$ と ϕ 10 との間…	…、 $\phi 10$ と $\phi 10.05$ との間…
P. 179 の 3. 《図面指示が要求 すること》の①の文章中	…、 $\phi 9.95$ と ϕ 10 との間…	…、 $\phi 10$ と $\phi 10.05$ との間…
P. 185 の文章の 12 行目	…L、M、N の…	…H、K、L の…

※刷数によっては修正されている項目もあります。